

野生動物との共存 ～鳥獣による被害を増やさないために～

多くの農作物が収穫期となる秋。この季節は、野生動物の活動が最も活発になる季節でもあります。野生動物は農作物の被害だけでなく、人里や道路にも出没し、生活環境にも被害をもたらしています。今回の特集では、本市における鳥獣被害の状況や被害を防ぐためにできること、野生動物とのすみ分けについて皆さんに知ってほしいことを紹介します。

野生動物が人里に近づくことで発生する被害

本市の農業分野における野生動物(有害鳥獣)の被害額(図1)は、令和5年度で5300万円にものぼり、中でもイノシシによる被害が全体の84%と最も多くなっています(図2)。また、被害作物は、水稻・野菜・飼料作物・果樹が多く、1年を通して市内全域で被害が報告されています。

農作物の被害だけでなく、被害に遭った農業者が営農意欲を失い、耕作を辞めてしまうことにもつながっています。有害鳥獣の捕獲数(図3)もイノシシが最も多く、農作物

の被害のみならず、人里への出没など、生活への被害も発生しています。

有害鳥獣を人里に「近づけない」「増やさない」ことで、これらの被害を減少させることができます。一人一人が対策を知り、行動することが大切です。

※有害鳥獣＝農林水産業や人身などに被害を与える鳥獣類を指し、本市ではイノシシ、アライグマ、シカ、カラス等を指定しています。

図1

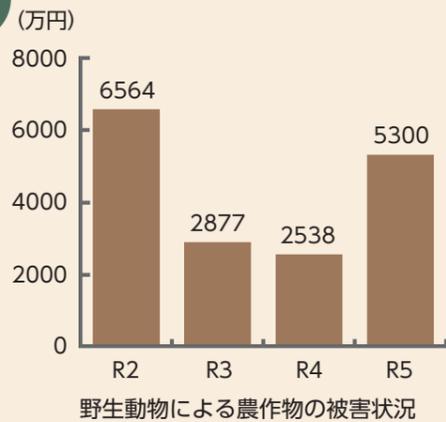


図3

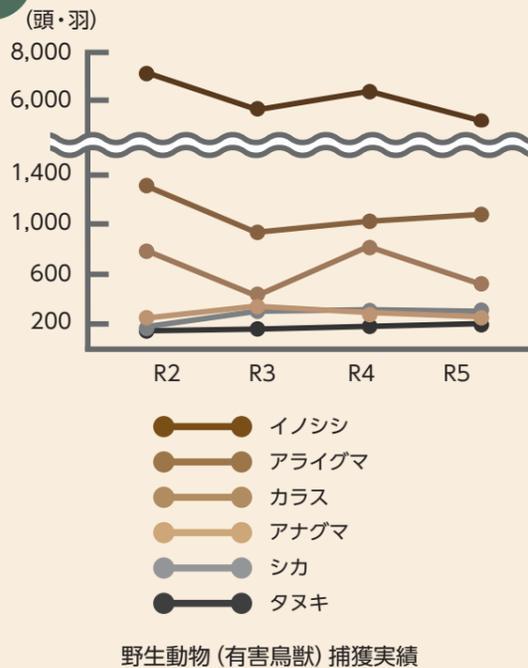
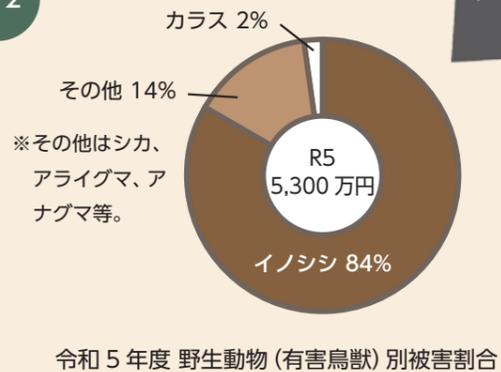


図2



被害数が多いイノシシによる被害を減らしましょう

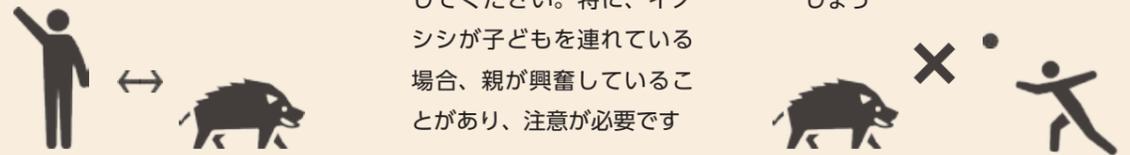
イノシシの習性

- 雑食性で基本的に何でも食べます
- 比較的おとなしく、非常に臆病な動物ですが、人間に対して警戒心がなくなると人前でも堂々と行動します
- 夜行性ではなく、昼間でも行動します



イノシシに遭遇したら

- 不用意に近づかず、離れましょう
- 万が一近づいてきたら、慌てず騒がずゆっくりと後ずさりし、安全な場所に避難してください。特に、イノシシが子どもを連れている場合、親が興奮していることがあり、注意が必要です
- むやみに大声を出したり石を投げたりして、イノシシを刺激しないようにしましょう



イノシシを近づけないために

イノシシの餌がない環境をつくる

- ごみはきちんと管理する



家の周りに生ごみを放置せず、地域で決められた時間・場所を守ってごみを捨てましょう。袋の口をしっかりと結ぶことや、金属製のごみ箱・柵でごみを囲うことも効果的です。

- 犬や猫の餌やりは正しく行う
ペットフードは放置しないようにしましょう。アライグマなども犬や猫の餌に寄ってきます。また、野良猫への餌やりはしないようにしましょう。
- 収穫後はきちんと処分する
畑や果樹から収穫した残りの野菜や果物などは放置せず、処分しましょう。お墓のお供え物などもできるだけ持ち帰ってください。

- 果樹などを適切に管理する

びわや柿、栗の木などの果樹がある場合、張り出した枝を払ったり、不要な場合は伐採したりしましょう。餌となる果樹があると、毎年同じ時期に出没するようになります。

イノシシが近寄りにくい環境をつくる

- 防護柵を設置する



家庭菜園などは、柵などを設けると侵入防止に効果的です。

- 定期的に草刈りを行う

イノシシは草やぶなどをすみかや移動場所としています。地域で協力して草刈りをしましょう。

佐世保市の取り組み

野生動物による被害を防止するため、本市では防護対策・捕獲対策・環境整備(すみ分け)対策の3つの取り組みなどを進めています。

1. 防護対策に関する取り組み



農地を守るワイヤーメッシュ柵

- 農家が管理する農地への被害防止を目的とした、電気柵およびワイヤーメッシュ柵の導入

2. 捕獲対策に関する取り組み



箱わなを見回る猟友会

- 地元猟友会への捕獲業務の委託
- 狩猟免許取得者に対する助成
- 箱わななどを導入し、地元猟友会へ貸与

3. 環境整備(すみ分け)対策



市街地に出没したイノシシ

- 市民に対して草刈りや、落下果実の回収を行うことなどの対策を周知・説明

猟友会の活動を動画でプラス



YouTube「佐世保市チャンネル」
広報させばプラス

アライグマによる被害も多発しています



アライグマは器用に獲物を捕ったり、樹木や家屋の柱・壁などをよじ登って家屋に侵入したりします。

アライグマに出会ったら

- 絶対に触れたり近づいたりしないでください
- 絶対に餌をやらしないでください

被害を防ぐためにできること

- すみかをなくす
侵入口になる建物の隙間(換気口や増築部分の継ぎ目など)をふさいだり、屋根に登れる庭木の枝を剪定したりしましょう。
- 餌をなくす
敷地内の農作物や果実は早めに収穫するか、網を掛けましょう。また、ペットフードの残りや生ごみを屋外に放置しないようにしましょう。家庭の池や水槽で飼っている魚なども狙われます。金網でふさぎ、石で重しをする(網を固定すること)などが効果的です。

捕獲したイノシシをジビエとして活用

● ヘルシー・BOAR



ヘルシー・BOARは、天然のイノシシ肉を特産品として売り出すことで江迎町の活性化へつなげたいという思いから、地元猟友会の有志で設立されたジビエ処理加工施設です。佐世保市のふるさと納税返礼品にも登録されています。

※イノシシ肉は山下商店(江迎町長坂164-11)で販売しています。



しし肉スライス(約300g)

佐世保工業高等専門学校と連携

本市は、佐世保工業高等専門学校と連携し、同校の工学的な知見や技術力を生かした「有害鳥獣対策アイデアコンテスト」や「箱わなの共同開発」などの取り組みを行っています。今回は「有害鳥獣対策アイデアコンテスト」に令和3年度から取り組んでいただいている猪原准教授と、昨年取り組んでいただいた学生の中村さんに話を伺いました。

佐世保工業高等専門学校
猪原 武士 准教授

など、高専が得意とする技術を、有害鳥獣以外の佐世保市の課題にも適用していけるようになったらいいと思います。

(取材日 10月2日)



箱わなについて学ぶ学生

アイデアコンテストは、①学生が有害鳥獣の課題を知る②学生がチームになってアイデアを考える③各チームが発表する、の3コマ(1コマ90分)で進めています。学生たちにとっては、佐世保市の有害鳥獣の課題を知るだけでなく、課題解決能力と、工学的知識の応用力を学習できる取り組みだと思っています。これまでのコンテストでは、イノシシの忌避剤を、浸透圧を活用して長持ちさせるアイデアや、機械を駆使してわなから逃げにくくするアイデアなどの発表がありました。今後も、工学的知見やIoT

専攻科 電気電子工学系 中村 夏明さん

私たちのチームはコンテストで「学校の給食でジビエ料理を出す」という発表をしました。電気科の学生チームとして、電気わななどのアイデアも検討したのですが、実現性の部分でより可能性が高いということから、「ジビエ料理」に落ち着きました。コンテストに関わるまで、イノシシなどを実際に自分の目で見たことがなかったので、ひとつごとのような感覚でしたが、コンテストに向けた取り組みの中で、被害などの話を実際に聞いて、身近に感じられるようになりました。私たちが工学的な視点で、自分たちの専門性を生かして、地元の役に立てたらいいなと思いました。

(取材日 10月2日)